

令和 5 年 4 月 21 日

独立行政法人大学入試センター長 殿

生物科学学会連合 代表 東原 和成

大学入学共通テスト「生物基礎」及び「生物」の作問について（お願い）

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。当連合では、我が国の生物教育の充実・発展を支援すべく活動しています。

平素より当連合の活動にご理解ご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和 5 年 1 月 14、15 日に行われた令和 5 年度大学入学共通テスト（本試験）の理科②において、平均点が最も高かったのは物理（63.39 点）、最も低かったのが生物（39.74 点）で、得点差が 23.65 点あったことから、生物と化学において、得点調整が行われました。本年度の共通テスト生物の問題については、作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」を問う問題としては、とても良い問題であったと思われます。しかし、特に思考力を問う問題には時間がかかり、問題の量としては適切ではなかったと思われます。また、生物で思考力を問うことに重点が置かれたことは他の理科の科目に比べ急激な変換であり、高等学校で生物を履修した高校生が正答を導き出すのには、難しい選択肢もあったと思われます。

生物学は魅力ある学問分野であると感じている高校生は多く、高等学校で生物基礎を学んだ後に、生物を選択履修したいと考える高校生も多いと思います。しかし、今回のように他の科目と比較して、平均点に開きがあると大学入学選抜試験として生物を選択することが、大学入学選抜に不利になるというイメージを与えかねないと思います。このような状況は以前から言われていることから、理科の他の科目に比べ、生物の受験者が著しく減少する傾向にあります。

生物科学学会連合でも、このような状況が続くと、将来生物学を発展させる次世代の担い手を失うばかりではなく、一般市民の生物学に関するリテラシーの低下を招く恐れがあると危惧しております。

つきましては、貴センターの大学入試共通テスト「生物基礎」及び「生物」の作問チームにも下記の要望をお伝えいただけると大変幸甚に存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

記

生物科学学会連合からの要望

1. 高等学校学習指導要領に基づく学習範囲の中から問題を作成し、特に生物は用語の暗記科目ではなく、魅力ある学問であることを示す問題作成をこれからもお願いしたい。
2. 高校教育の成果として身に付けた大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力の両方を測るために、「知識・技能」を問う問題と「思考力・判断力・表現力」を問う問題をバランスよく出題して欲しい。
3. 「思考力・判断力・表現力」を問う問題の作問に関して、受験生の能力を時間内で発揮できるように、適切な文章量、図や表の活用、設問の精選などを行っていただきたい。
4. 選択による受験者間に不公平が生じないように、理科の科目のみならず、教科間、科目間で連携を取りつつ、受験生の能力そのものが、平均点や得点分布で表現できるような問題作成をお願いしたい。

加盟学協会

個体群生態学会、染色体学会、日本味と匂学会、日本遺伝学会、日本宇宙生物科学学会、日本解剖学会、日本細胞生物学会、日本時間生物学会、日本実験動物学会、日本植物学会、日本植物形態学会、日本植物生理学会、日本進化学会、日本神経化学会、日本神経科学学会、日本人類学会、日本生化学会、日本生態学会、日本生物教育学会、日本生物物理学会、日本生理学会、日本組織細胞化学会、日本蛋白質科学会、日本動物学会、日本農芸化学会、日本バイオインフォマティクス学会、日本発生生物学会、日本比較生理生化学会、日本比較内分泌学会、日本微生物生態学会、日本分子生物学会、日本分類学会連合、日本免疫学会、日本薬理学会（五十音順）